

4 歳児 さくら組 保育指導案

指導者 福井智子

子どもの興味を引き、イメージが広がるような素材を用意したことや、子どもの思いを見取り、手を貸す、周りの子どもと関わりがもてるような言葉かけをするなどはたらきかけをしたことは、一人一人が自分の遊びを楽しむことや広げていくことに有効であったか。

1 活動名 ○○っておもしろいよ

2 3期（6月中旬から9月下旬）のねらい

○今まで自分がしたことのない遊びや友だちのしている遊びにも目を向けたり試してみたりしながら、自分の遊びや遊び方を広げていく。

○いろいろな友だちと関わったり、親しくなった友だちとの関わりを深めたりしていく。

○いろいろな自然や生き物に興味をもって関わり、楽しさや不思議さを感じる。

3 保育の構想

(1) 全体的に落ち着いた雰囲気があり、明るく優しい子どもたちである。また、自分の気持ちを素直に表現することのできる子どもが多い。入園してしばらくすると、表情が和らぎ始め、自分から「おはよう」と保育室に入ってくる子が増えてきた。多くの子どもたちが園生活に慣れ、登園後すぐに遊びに向かうことができている。

「自分でみつけた遊び」では、築山や遊具などに挑戦する姿や、砂場でどろんこ遊びをする姿、砂と水、草花を使ってごちそう作りを楽しむ姿等が見られる。様々なことに興味・関心を向け、時間いっぱい遊びを楽しんでいる。

友だちの遊んでいる様子に目を向けたり、「何してるの？」と尋ねたりするなど、さくら組の友だちへの関心も出てきた。友だちと同じポーズをとったり、同じものを持ったりすることを喜ぶ姿も見られる。しかし、友だちのしている遊びを同じようにやってみようとする姿はあまり見られない。

歌や手遊びをすること、楽しかった遊びや見付けたものを伝え合うことなど、学級のみんなでする活動を喜ぶ姿がある。他方で、みんなでの集まりの場になかなか入れなかったり、自分のやりたいことを続けようとしたりするなど、自分の気持ちを切り替えることが難しい子どももいる。遊んだ後の片付けや衣服の着脱などは、経験の差が大きいのが、教師が見本を示したり、手を貸したりすることで、自分でやろうとする姿が見られる。

(2) 2期（4月下旬から6月中旬）で、子どもたちは、自分の気に入った遊びを見付け、友だちに関心をもつようになってきた。3期（6月中旬から9月下旬）では、友だちのしている遊びを自分も試してみたり、自分の気に入った遊びに繰り返し取り組んだりする中で、友だちと関わりながら自分なりに遊びや遊び方を広げていく姿が見られるようになることを期待する。また、季候がよく、水や泥に気持ちよく触れることができ、園庭には草花や虫も多く見られるなど、外遊びに適した時期である。そこで、次のようなねらいと内容を設定した。

- 今まで自分がしたことのない遊びや友だちのしている遊びにも目を向けたり試したりしながら、自分の遊びや遊び方を広げていく。
 - ・使ったことのない物を見つけて使ってみたり、友だちのしている遊びにも興味をもち、同じようにしてみたりする。
 - ・自分の気に入った遊びに繰り返し取り組んだり、教師や友だちに見せたりする。
- いろいろな友だちと関わったり、親しくなった友だちとの関わりを深めたりしていく。
 - ・友だちに声を掛けて一緒に遊んだり、「入れて」と言って友だちの遊びに加わったりする。
 - ・お互いの好きな遊びを一緒にしたり、隣に座ったりする。
- いろいろな自然や生き物に興味をもって関わり、面白さを感じる。
 - ・砂、土、水などの感触を楽しみながら遊ぶ。
 - ・園庭のお気に入りの場所や自然物で繰り返し遊ぶ。
 - ・いろいろな植物や生き物を見つけて、じっくりと見たり教師に名前を尋ねたりする。

(3) 子どもが自分の遊びや遊び方を広げていくためには、同じ遊びを繰り返すことが必要である。繰り返して遊ぶ中で表れてきた遊びの変化を認めていくことで、新しいことを考えようとする意欲につなげていきたい。遊ぶ場を広げ、戸外での遊びの楽しさや体を動かして遊ぶ楽しさが味わえるように、教師が積極的に誘い出したり、子どもの興味を引き、外での遊びに使いたくなるような素材を用意したりする。また、「～したい。」という子どもの気持ちを大切に、教師も子どもと一緒に遊びに必要な素材を探したり選んだりする。子どもの思いに合わせて新しい素材を教師が出したり、子どもが自分の思いに合うものを探しやすいように、空き箱やカップなどの廃材を入れるところを分けてラベルで表示したりする。

そして、教師も一緒に遊びに加わりながら、子どもの思いに共感し、個々に応じた言葉かけをしていく。遊びのイメージが広がるように「～みたいだね。」など、子どものしている遊びや動きを言葉に表していく。

さらに、それぞれがしている遊びを友だちに紹介する場をもつ。ここでは、子どもが自分の遊びや思いを言葉だけではなく、身ぶり手ぶり、擬音語など自分なりの表現で友だちに伝えようとする姿が大切である。教師は、必要に応じて代弁したり言葉を補足したりして、子どもの思いが伝わるようにする。一方では、小集団で伝え合ったり、遊びそのものを一緒に体験してみたりする、同じ興味をもつ友だち同士が関わる場も大切にしていきたい。必要に応じて、学級全体にも広げていく。これらのことが、新たな友だちとの関わりや、友だちの遊びを取り入れて一人一人の遊びや遊び方の広がりにつながっていくと考える。

4 予想される幼児の主な活動の展開

	遊びを広げる	友だちと関わる	自然や生き物と関わる
二期(四月下旬から六月中旬) 三期(六月中旬から九月下旬)	<ul style="list-style-type: none"> ・「カレーできたよ。」など、自分の作ったごちそうを教師に出したり、一緒に食べたりする。 ・「先生見て～」と大きな声で呼びかけたり、近付いてきて自分の作ったものを見せながら話をしたりする。 ・「こっちに来てよ。」と手を引っ張って連れて行き、いろいろな遊具や竹登りに挑戦して見せたり、築山など自分のお気に入りの場所を教えたりする。 ・「～みたいだね。」と教師が言うと、それに続けて自分の思いを言ったり、さらにイメージを広げて遊びを進めていったりする。 ・ごっこ遊びに使うごちそうを作ったり、イメージを動きや言葉で表したりする。 ・同じ場所で遊んだり、同じ遊びを繰り返したりする。 ・竹登りやうんていなど、友だちの姿を見ながら自分も同じようにやってみる。 ・自分の作った物を友だちと見せ合ったり、それを見て、自分の遊びに取り入れたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちが遊んでいるのを見て自分も同じように遊び始める。 ・友だちが持っている物と同じ物を探したり、友だちが作っている物を見て、自分も同じ物を作ろうとしたりする。 ・自分の作った物を教師や友だちに見せたり、「こーやるんだよ。」と友だちに作り方や遊び方を教えたりする。 ・教師や友だちに声をかけて自分の好きな遊びを一緒にしたり、好きな場所に行ったりする。 ・友だちの遊びに「入れて。」と言い、同じ場所で友だちと関わりながら遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・草花で色水を作ったり、砂や水を混ぜてその感触を味わったりしながら、自分なりの言葉で表現する。 ・砂と水を混ぜてその感触を味わったり、土をバケツや型に押し詰めて砂が硬くなることを楽しんだりする。 ・草花によって色水の色が違うことや色が出やすい物と出にくい物があることに気づき、いろいろと試す。 ・ダンゴムシやアメンボを見つけて喜んだり「捕まえて。」と教師に頼んだりする。 ・砂、土、草花など、遊びに用いる自然物の種類が増える。また、遊びに必要な自然物を自分で見つけようとする。 ・園庭でいろいろな植物や生き物を見つけて、じっくりと見たり教師に名前を尋ねたりする。 ・自分でダンゴムシやアメンボ、バッタを捕まえようとしていたり、虫のいる場所を探している友だちに教えたりする。

5 本日の生活について

(1) ねらい

一人一人が自分の思いを出しながら、楽しく遊んだり、自分の遊びを広げたりしていく。

(2) 予想される生活の展開

